

81.10.21

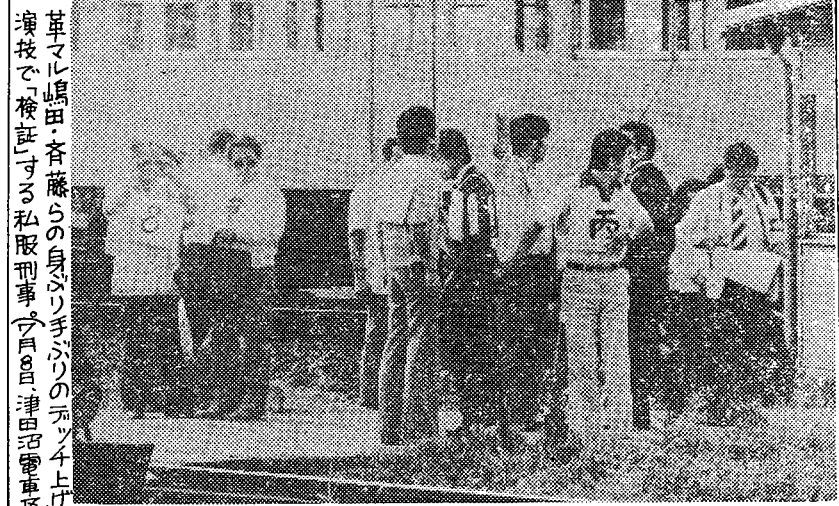
No.874

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・公衆) 電話(22)七二〇七

# 10.27 デッチあげ「6.12津田沼事件」 を1回公判闘争に総決起いよ

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ



革マル嶋田・斉藤らの身振り手振りのデッチあげ演技で「検証」する私服刑事。7月8日、津田沼電車区

## 「本部」反動分子・権力一体の攻撃をうちくたせよう

10月27日、あの憎むべきデッチ上げ告訴の公判闘争がいよいよ開始される。動労「本部」反動分子が、転び屋をつかって自作自演の「6・12集団暴行傷害事件」なるものを百パーセントうその上にデッチあげ、あたかも動労千葉が暴力集団であるかの如く描き出し、十名の仲間を警察権力に売り渡して動労千葉の組織破壊を画策するという、あの腐り切った彼らの反階級的行為を、怒りも新たに、来たる公判廷でとことん追及し断罪していこうではありませんか。十・二七総力で千葉地裁へ結集しよう！

「本部」反動分子は、なぜ「6・12」をデッチ上げたのか

「6・12デッチ上げ告訴」攻撃に示された第一の点は、動労「本部」反動分子の極限にまで達した危機と腐敗である。

動労千葉結成以来二年有余の間に、彼らは全支部にわたって多数による暴力的破壊攻撃をくり返してきた。とりわけ津田沼支部に対しては、スパイ分子「革マル嶋田」を手引き者として「79年四・一七襲撃事件」更には「80年四・一五襲撃事件」をかけながら、そのことごとくが粉碎されるや国鉄当局に泣きつき、処分要請をするという暴挙に走った。しかし、動労千葉一三〇〇の組織力と団結力は微動だにもせず、ありとあらゆる弾圧・妨害をうち破って81・3歴史的大ストライキを貫徹し、逆に組織人員をも拡大しつつ日々闘いぬいていく。一方、動労「本部」反動分子は、デッチ上げ「千葉地本再建」以降も組織拡大が一步も進まないばかりか、とりわけ全国大会を前にして本年六月、仙台・盛岡からの帰任者が続々と「本部」を脱退して動労千葉に結集するという現実の前に絶望的な危機感を深めたのである。

こうして「本部」反動分子は、遂にデッチ上げ「6・12集団暴力事件」を自作自演し警察権力に弾圧要請を行い、その腐り切ったファシスト的姿をより鮮明にあらわしたのである。

組織絶滅の狙いを  
むき出した権力

「6・12デッチ上げ告訴」攻撃に示された第二の点は、労農連帯の正義に立ちきり、三里塚・ジェット闘争を貫徹し、かつ全人民に闘い

の輪をおし拡げつつ前進する動労千葉に対して権力がとことん恐怖し憎悪しているということである。

「6・12」なるものが、「本部」反動分子による完全なデッチ上げである事を百も承知しながら、警察権力は「待ってました」とばかりに七月八日早朝、私服四〇名・機動隊五〇名という大弾圧体制をもって津田沼電車地職場に乱入し、自作自演のデッチ上げの演技を嶋田・斉藤らにやらせて「現場検証」なるものをデッチ上げた。更に七月十五日には、それを上まわるガス銃をかまえた機動隊をくり出して暴力的家宅搜索と不当逮捕を強行した。六名の仲間の十七日間に及ぶ勾留中における取調べ官の言動は、いわゆる「傷害事件」なるものはそっちのけでもっぱら「組合を脱退しろ」「役員をやめろ」「三里塚などやめろ」「動労千葉は組合ではない」等、明らかに路線の転向をせまり、組織絶滅を意図した不当な弾圧姿勢をむき出しにしてきた。

81・3闘争の歴史的な大ストライキの爆発に恐怖する日帝鈴木体制は、軍事大国化に改憲攻撃を推し進める上で、不可欠な条件として三里塚・ジェット闘争の圧殺に反対同盟や動労千葉の組織破壊を狙っており、そのためにはいかなる理由もいらぬむき出しの弾圧にうって出てきたのである。こうして国家権力と「本部」反動分子一掃の共通の目的がこめられたものとして今回の「告訴」攻撃があるのである。

「本部」反動分子一掃・公判闘争勝利へ！

我々は、今日の労働運動の危機的状況を左の側から突破するため、三里塚・反戦・反合の闘いの軸をしっかりとうちたて、全戦線から「本部」革マル反動分子を一掃して前進しようではありませんか。

十月二十七日、十三時の「第一回公判」(千葉地裁)に、怒りも新たに総結集しよう！